

め、裁縫、機織り等を教える目的で、明治時代初期に設立されたのが前身である。当時は、芸妓や舞妓だけでなく、その花街に暮らす女性一般の教育も広く担っていた。現在、祇園甲部では「八坂女紅場学園」、先斗町は「鴨川学園」、宮川町は「東山女子学園」があり、舞踊、邦楽、華道、茶道等を教えている。上七軒には、これに相当するものがなく「検番」に拠っている。また、祇園東には「美暦女紅場」があったが大正年間に無くなり、現在はお茶屋組合で稽古を行なうことで、花街の伝統を継承している。

## イ 具体事例

### (7) 上七軒



図2-44 上七軒

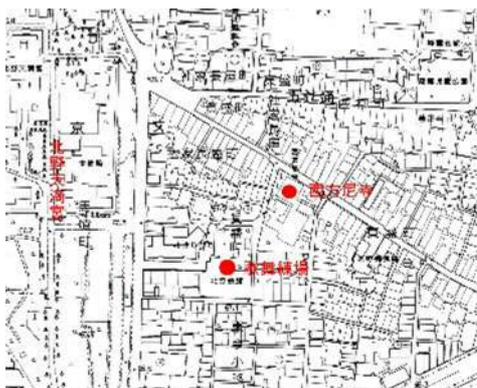


図2-45 上七軒 (拡大図)

五つの花街の中で最も古い花街が「上七軒」で、15世紀中頃北野天満宮（本殿は国宝）が一部焼失し、修理工事の際に残った材料の払い下げにより出来上がった7軒の茶屋が起源になる。

今も趣のある町並みを残す上七軒の花街を中心に、「上京北野界わい景観整備地区」に指

定している地域は、北野天満宮の門前としての特色ある風情を今に留めている。特に、上七軒通りには、茶屋が建ち並び、門前町の賑わいととも花街の伝統文化が継承されており、優雅で落ち着いたある町並みを形成している。

また、このあたりは、天正15年(1587)豊臣秀吉が催した北野大茶会の会場であり、上七軒歌舞練場の北にある西方尼寺の中には、茶会の折に千利休が使ったと伝承されている「利休の井」があり、今もこの寺では釜が掛けられ、茶道の愛好家が訪れている。さらに、梅の名所で知られる北野天満宮で行われる春の「梅花祭」の際には、上七軒の芸妓・舞妓などの奉仕により、野点が開催される。境内の梅と併せた華やかな催しが行われ、北野天満宮の門前町としての歴史的な活動が、今に引き継がれている。

上七軒の歌舞練場は、明治28年(1895)に建設されたもので、その後増改築を重ね、昭和26年に現在の形になった。昭和27年(1952)に上七軒歌舞練場で始められた「北野をどり」は、北野天満宮千五十年大万燈会を記念して開催されたもので、踊りの振り付けは花柳流で、毎年春には多くの客で賑わいを見せている。この時期になると、お茶屋の前には「北野をどり」のちょうちんが点され、雅な京都らしい独特の風情を醸し出している。

### (4) 祇園甲部

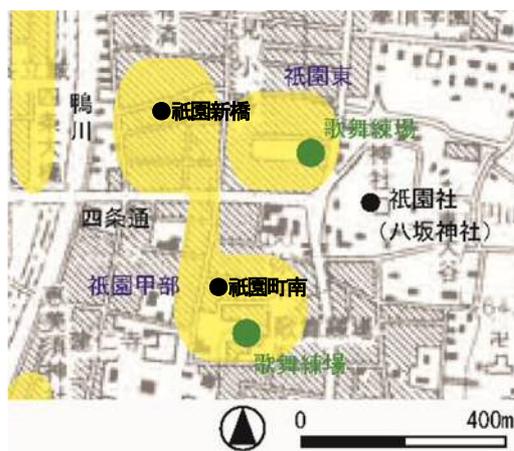


図2-47 祇園甲部, 祇園東

現在、最も大きな規模を誇る花街が「祇園甲部」である。寛文10年(1670)に鴨川の改修工事が進み、大和大路(縄手通)に「祇園